

日光山輪王寺

有名な仏教僧であり山岳修道僧勝道上人（735-817）は、日光山輪王寺の前身である四本龍寺の創始者であった。現在、輪王寺は東照宮と二荒山神社を含む、日光の神社仏閣の一部である。複合体全体がユネスコの世界遺産に指定されている。

日光の宗教的慣習は、仏教、神道、修験道が8世紀の早い時期に融合したものである。日本では、1868年に神仏分離令が出されるまで、このような宗教思想の混合が一般的であった。その結果、1871年に輪王寺は日光で唯一の仏教寺院となりました。

日光の壮大で重要な財産の多くは、輪王寺の一部になっている。日光の信仰の基本となる三仏は、輪王寺の三仏堂に祀られている。ここでは、金色の木製の彫像が崇拜の重要な対象となっている。第三代将軍徳川家光（1604-1651）の豪華な最後の休息場所である大猷院も輪王寺の中に属している。